

薬用作物産地支援 栽培技術研修 関東・北陸会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

研修実施場所： 駅南貸会議室KENTO（新潟県新潟市中央区天神1丁目1 プラールカ3） 会議室RoomB

実施時期： 9月9日(水)～10日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月9日 (水)	13:10- 13:50 (40分)	13:00現地集合 場所：新潟駅前(JR東日 本) 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	14:00- 15:20 (80分)	[現地研修] 薬用作物の栽培技術等について	新潟市農業活性化研究センターにおける現地研修で、東京生薬協会との薬用作物栽培に関する連携協定締結での活動内容、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		新潟市農林水産部農業 活性化研究センター
	15:30- 16:30 (60分)	[講義] 薬用作物の実需者ニーズ と今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	飯田 修	薬用作物産地支援協議 会専門相談員
	16:50- 17:30 (40分)	移動(バス利用) →研修会場前(解散)		事務局	
9月10日 (木)	9:10-10:40 (90分)	[講義] 薬用作物の栽培技術について	東京生薬協会が行っている薬用植物の国内栽培に対する支援事業を通じた栽培技術指導から、薬用作物の国内栽培における要点と課題を解説する。	小谷 宗司	前・信州大学特任教授 公益社団法人東京生薬 協会 薬用植物国内栽 培事業委員会委員長
	10:50- 12:00 (70分)	[講義] 農水省委託プロジェクト研 究「薬用作物の国内生産 拡大に向けた技術の開 発」の取り組み	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について高品質化、低コスト化および生産の安定化を可能とする技術開発の推進を目的としたプロジェクト研究のうち、新潟県と富山県で取り組んでいるこれまでの成果について解説する。	田村 隆幸  諸橋 修一	富山県薬事総合研究開 発センター 薬用植物 指導センター主任研究 員  新潟県農業総合研究所 中山間地農業技術セン ター 専門研究員
	12:00- 13:00	昼休み			
	13:00- 14:30 (90分)	[情報交換会] 各地域の薬用作物産地 形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:30-14:50	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	